



地域医療連携ニュース



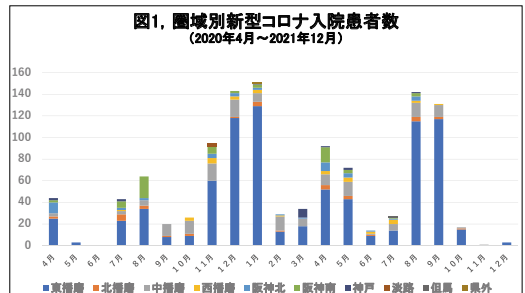
発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

● 地域連携動向…………… 1	● 薬剤部…………… 5
● 放射線科…………… 2	● 専門看護師・認定看護師…………… 6
● サポートケア外来(緩和ケアチーム)…………… 3	● 外来診療表…………… 8
● リハビリテーション科…………… 4	

地域医療支援病院兼兵庫県指定新型コロナ拠点病院としての2年間について

地域医療連携部長 兼 皮膚科部長 足立厚子

当院が加古川市神野町に新築移転してから、13周年を迎えました。当院は兵庫県の中で、生活習慣病医療、3次救急医療、緩和医療、神経難病、感染症医療という5つの政策医療+従来の高度専門医療をになう使命を持った病院です。2020年3月のコロナ禍以降、兵庫県より新型コロナウイルス感染症拠点病院に指定されました。第1波から第6波の現在に至るまで、東播磨圏域が主体ではありますが、他圏域からも多くの新型コロナ感染症の患者さんの入院を受け入れてきました。そのグラフを示します(図1)。2021年4月には重症コロナ病棟がオープンし、2021年8月からは抗体カクテル療法が開始されました。



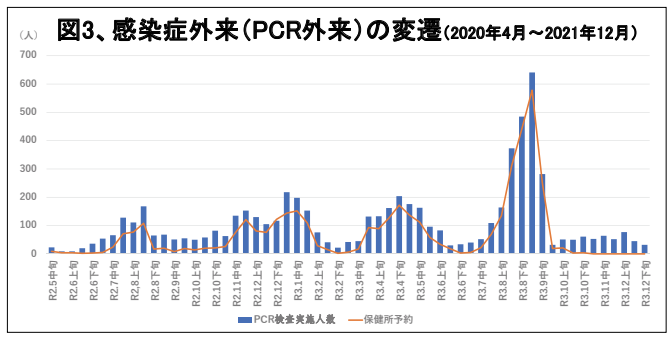
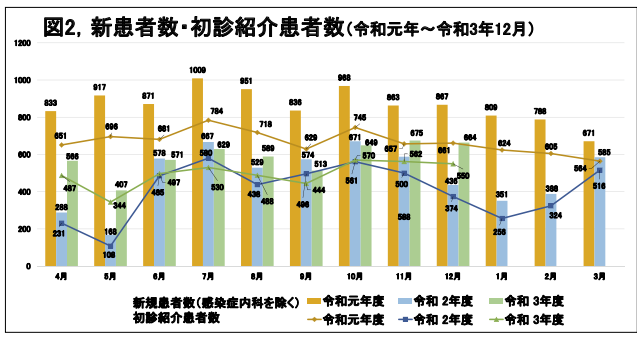
新型コロナ患者用病床および、看護師などの人員確保のため、ICU、HCU、一般病床、緩和病床を一時期縮小せざるを得ない状態となり、地域の医療機関にはご迷惑をおかけしました。しかし、その中で可能な限りの救急医療、一般診療、高度専門医療を提供し続け、最近ではコロナ禍以前に近づきつつあります(表1、図2)。

表1. 救急医療の実績(2019年度～2021年12月)

	患者数	原因別			搬送別経路		
		交通事故	疾病	その他	救急車	ドクターヘリ	その他
2019年度	7,485	424	6,846	225	2,595	448	4,451
2020年度	4,337	100	4,137	100	946	355	3,036
2021年4月～12月	3,651	105	3,444	102	1,038	274	2,341
2021年度見込み	4,746	136	4,477	133	1,347	356	3,043

外来におきましては、高度専門医療を伴う一般診療の継続とともに、保健所から依頼された多くの患者さんの新型コロナウイルスPCR外来も担って参りました(図3)。多くの外来・入院の新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れながら、2年間病院内でクラスターが発生していないのは当院の誇りです。

県民の皆さまへの情報発信として、2020年10月には「兵庫県新型コロナウイルス感染症拠点病院による～県かこ新型コロナウイルス講座～」と題して新型コロナウイルスを正しく理解して頂くことを目的に、また、2022年1月15日には、「Withコロナ時代を健康に生き抜くために」と題してコロナ禍における、肥満、糖尿病の悪化、運動不足がいかに怖いかをテーマに県かこ県民フォーラムを開催しました。今後も気を引き締めて、新型コロナウイルス感染症診療のみならず、一般診療、高度専門医療にも、地域の皆さまとともに取り組んで参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。





放射線科



放射線科では、従来使用していた64列マルチスライスCTにかわり、新しく最新の256列デュアルエネルギーCT (GE社製「RevolutionCT」)を導入することとなりました。多列化によるさらなる高速撮像と2種類の異なる管電圧を用いたデュアルエネルギーCT等により、以下のようなメリットがあります。(スライド1)

■ 仮想単色X線画像の撮影

任意のX線エネルギーで撮影した画像を得ることができます。金属アーチファクトを低減したり、造影剤を減量した場合でもこれまでと遜色無いコントラストの良い画像を得ることができ、腎機能の悪い患者さんに多大なメリットがあります。(スライド2)



▲スライド1

■ 物質密度画像

任意の物質のみの画像を作ることができ、救急外傷の骨折や急性腹症、脳出血など病変の性状診断に有用とされています。また実行原子番号解析により尿管結石の性状を判断し治療に役立てることができます。(スライド3)

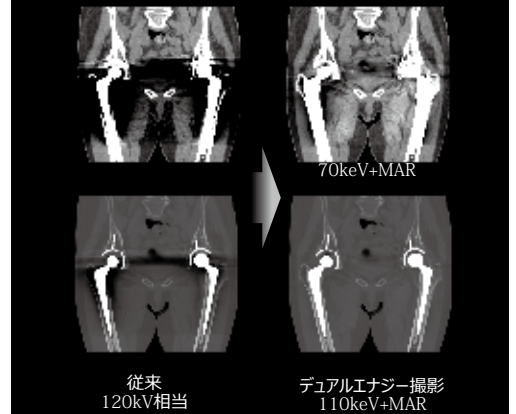
■ 冠動脈CTの性能向上

従来より短時間で撮影でき、これまでは撮影が難しかった高心拍や不整脈の患者さんの成功率が大幅に向上し高精細な画像を撮像できます。(スライド4)

その他 AI(人工知能)による Deep Learning を活用した技術などを利用して、被ばく線量を減少させることができ、多くの患者さんにメリットがあります。

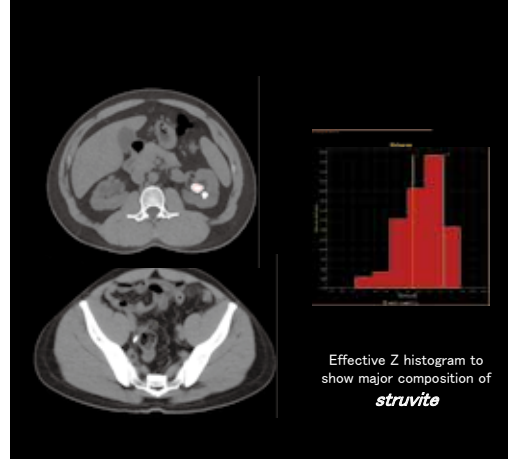
本年3月末頃からの稼働を予定しておりますので、画像診断の必要な方がおられましたらご依頼いただけましたら幸いです。

デュアルエネルギーCTを用いた金属アーチファクト低減



▲スライド2

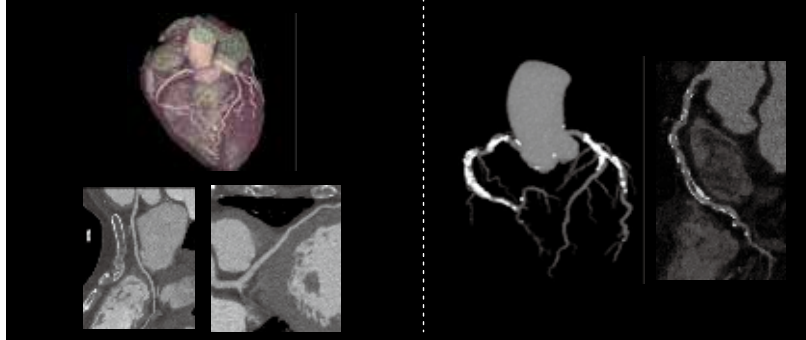
デュアルエネルギーCTを用いた結石成分評価



▲スライド3

高心拍&不整脈症例でも、たった1心拍撮影で完了
検査中にHR52-123BPM変化

2.5倍のデータ収集を行う高精細モード撮影
高度石灰化症例



▲スライド4



サポーターブケアチーム



緩和ケア内科 田中 祐子

理念

やさしさとぬくもりのある質の高い医療を実践し、地域の緩和医療における基幹病院の緩和ケアチームとして患者・家族のQOL（生活の質）の向上に貢献する

構成メンバー

医師、看護師、薬剤師、リハビリ療法士（PT、OT）、管理栄養士、社会福祉士

活動の目的

患者さんとご家族のQOLの向上（がん／非がん疾患）

活動の目標

緩和ケアが院内の文化として根付き、各医療従事者を含む職員により実践されること

疾患によらず「緩和ケア」とは「患者・家族のQOLの維持向上である」と定義すると、「高齢化」を背景に治癒を目指すことが難しい患者さんの「生活の質」を高めることにおいて果たす役割は非常に大きいのではないかと考えています。

私たちサポーターブケアチームは1回／週、勉強会で緩和ケアに関連する専門的知識の共有だけでなく、各専門職の業務や得意とする所を伝え（知り）、症例カンファレンスを通してそれぞれの強みを発揮しつつ、弱みを補完しあえる所が無い意見交換しながら、多職種連携の視点を強化し実践しています。

■ **栄養管理課** 食欲不振をはじめとする食事に関する困りごとに寄り添い、他職種と連携しながら入院患者さんの食事内容の調整を行っています。また外来でも、状況に合わせたきめ細やかな栄養管理が継続的に実施出来るよう栄養相談を行っているため、困ったこと等があればご相談下さい。



栄養管理課

■ **看護部** チームラウンドでは、病棟看護師より対応に困っている患者の情報を確認してから、ベッドサイドで詳しくお話を伺い、その後のチームカンファレンスでケア内容がスムーズに検討できるように情報を整理して参加しています。辛そうにしていた患者さんが笑顔になり前向きになれるよう関わっていきます。



地域／看護／診療部

■ **診療部** 患者さんの人生に敬意を払いながら、病状と全人的苦痛の緩和のために主治医と共に診療にあたります。他の専門職の知識や経験を参考にし多職種連携を深める事で、様々な価値観を持つ患者さんのQOL維持向上に努めたいと考えています。



薬剤部

■ **地域医療連携部** MSWとして患者・家族の心理、社会的問題を理解することに努め、地域の関連機関やそれぞれの専門職との情報共有を行っています。異なる専門職の視点から様々な考え方を共有することで、患者・家族のより良い支援に繋がるのではないかと思います。

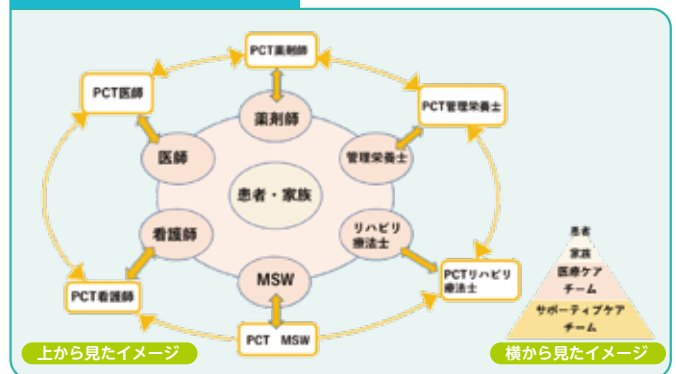


リハビリテーション部

■ **薬剤部** チームのスタッフ以外にも、病棟薬剤師や看護師など現場との連携に力を入れています。現場と連携することで日々変わる患者さんの状態をタイムリーに把握し、適切な症状緩和ができるようにサポートしています。

■ **リハビリテーション部** 病棟の他職種に対し離床促進のため、疼痛の少ない時間を確認し必要に応じて介入前の予防的レスキューを依頼しています。介入中の患者さんとの会話の中で食事に対しての好みや生活面の事を話す方も多く、カルテ記載等の手段を用いて多職種での情報共有をしています。

多職種連携のイメージ





リハビリテーション科



リハビリテーション部長 柳田博美

“No NO, No Health !” 鼻呼吸はコスパ感あふれる健康法

■ 鼻呼吸の効果

鼻呼吸は、空気が鼻を通る際に「エアフィルター」「温度調節」「加湿」という調整を受けるため空気中の「異物」から肺を守ります。一方、口呼吸では空気中の有害物質（ホコリや病原体等）や冷たく乾燥した空気が一気に、直接肺に侵入、肺そのものや（咽頭周囲のリンパ器官の影響で）身体の随所での炎症につながると言われています。お鼻からきれいで温かい空気を取り込みましょう。

■ 口呼吸と二酸化炭素（CO2）

口呼吸は気道抵抗が少ないため一回の呼吸量は多く、呼吸は浅くなりがち（慢性的な過呼吸傾向）で低 CO2 血症を生じます。血中 CO2 濃度の低下は末梢組織での「ヘモグロビンの酸素解離」を妨げ（ボア効果*）、筋肉や骨組織など末梢組織は酸欠状態となります。整形外科領域においても、炭酸ガス経皮吸収療法の研究が進んでいます。これは「CO2 濃度↑がヘモグロビンの酸素解離能力↑」ことにより組織の再生能力を向上するという点で「鼻呼吸（呼吸量↓ & 深い）→過呼吸の修正→酸素解離能↑」に通じます。鼻呼吸で酸欠を解消しましょう。

■ 鼻呼吸と一酸化窒素（NO）

NO は血管を拡張（降圧作用）、血行を促進し、酸素や血液、栄養素を体の隅々まで行き渡らせる効果を持つ機能分子で、特に循環器疾患との関連が注目されています。副鼻腔は最大の貯蔵庫（図 1）と言われ、ハミングや静かで深い鼻呼吸をすることで NO は効率良く体内に取り込まれ（口呼吸では取り込めない）有効活用が可能となります。「No NO, No Health!」を合言葉に様々な「血管病」を回避、さらなる健康を目指しましょう。ちなみに「ニトロ」は体内で NO になるお薬です。



▲図1

副鼻腔はNOの最大の貯蔵庫。鼻呼吸やハミングで遊離される/Sequence Wiz HPより
NOの生理作用：血管拡張、降圧作用、血小板凝集抑制、血管平滑筋増殖抑制、殺菌作用等

はじめての方へ

① 入浴中のアイシング

入浴時に鼻周囲に「冷やしてはお湯をかける（図 2）」を繰り返します。当初は一時的ですが、鼻が「スツと通る」感覚が実感できます。同時に、目の周り（毛様体筋の疲労回復）も「交代浴」の良い適応です。

② お昼間の「ロテープ」（図 3）

口呼吸に比べ気道抵抗が大きいいため、はじめは吸気に難ありですが数週で慣れます。まずは昼間にトライ。

③ 睡眠時の「ロテープ」

昼間にできるようになれば、睡眠時にトライ！ 24 時間、一生涯健康を維持できますよ。



▲図2

まとめ

鼻呼吸は「CO2 効果」と「NO の有効活用」を含め、コスパ最高な超・健康法です。

ひとり言

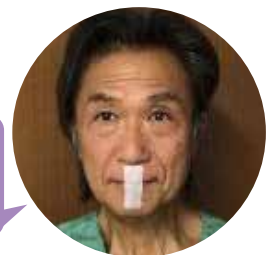
毎日本体を測ってます。昨年 7-10 月の平均が 36.1℃だったのが 1 月は 36.5℃でした。鼻呼吸は昨年 11 月から、吸気温↑と放熱量↓で体温上昇？と自己満足中（笑）現在 56 キロ、基礎代謝量↑で体重もう少し減らないかな www

※ボア効果：同じ PO2 なら PCO2 が高い方がヘモグロビンの酸素との親和性は低い→血液は末梢で酸素を放出しやすい。

本稿は「コロナリハから学ぶポストコロナの生き残り術」（第 13 回県かこ県民フォーラムで発表・当院 HP 掲載済）より一部引用しています。

図3▶

市販の「ロテープ」バンドエイドでもOKです。まずは昼間にトライ、「覚醒時無呼吸症候群（笑）」に気をつけて…
思わぬ効果：リハ室が静寂化！スタッフからは好評です（涙）





薬剤部



薬剤部は、薬剤師 18 名・事務職員 3 名の 21 名のスタッフで、患者さんに安全で適正な薬物療法を提供することを使命に、業務を行っています。医師や看護師等と連携をとりながら薬剤師の専門性を活かし、安心・安全で高度な薬物療法の実践を目指しています。

また、現在は新型コロナウイルス感染症拠点病院として、コロナ感染症入院患者さんの薬物療法についての処方確認や処方設計（抗菌薬治療の TDM など）を行い、さらにワクチン調製業務等により、地域の方のワクチン接種に貢献しています。

チーム医療への参画

■ 病棟薬剤業務

各病棟に薬剤師を配置し、患者さんへの服薬指導や医師・看護師への医薬品情報提供および相談応需を行っています。また、個々の患者さんに応じた処方提案、抗生物質の投与設計なども積極的に実施しています。さらに退院時には、持ち帰る薬の説明とともに入院中のアレルギーや副作用の有無についてお薬手帳に記載し、地域医療機関への確実な情報提供に努めています。

■ 持参薬鑑別業務

患者さんの持参薬をお薬手帳等を参照しつつ、病棟で患者さんから聞き取った情報を合わせて正確な鑑別を行い、その内容を電子カルテに記載することで、院内スタッフが情報共有しています。入院時も処方された先生方の意図に沿った適正な服薬を継続するため、受診・入院される際のお薬手帳の持参について患者さんへのご説明を引き続きよろしくお願いいたします。

地域保険薬局との連携

● 外来がん化学療法の質向上

令和 2 年 12 月より「連携充実加算」の算定を開始し、一年が経過しました。

病院ホームページ「がんへの取組み」内に抗がん剤レジメンを公開し、情報共有を図るとともに、地域の薬局薬剤師の方を対象とした研修会等も開催しています。これらにより当院の治療内容や副作用情報を、「かかりつけ薬局」と共有することで、患者さんへの一貫した指導に努め、薬局からは次回診察までの患者さんの状況を当院へ提供していただくことで、当院と薬局が連携しながら、患者さんの化学療法の質の向上に取り組んでいます。

● 疑義照会プロトコル

外来診療、保険薬局での調剤等が円滑に行われることを目的に「院外処方箋における疑義照会プロトコル」を制定しています。プロトコルの「疑義照会の不要例」は、個別の処方医への同意の確認を不要としています。詳細な運用につきましては、病院ホームページ「薬剤部：院外処方について」をご確認ください。



■ 専門・認定薬剤師（在籍）

- ・抗菌化学療法認定薬剤師
- ・外来がん治療認定薬剤師
- ・NST専門療法士
- ・日本糖尿病療養指導士
- ・認定実務実習指導薬剤師
- ・病院薬学認定薬剤師
- ・日本DMAT隊員
- ・スポーツファーマシスト
- ・禁煙指導認定薬剤師



専門看護師・認定看護師の活動紹介



当院には、2分野3名の専門看護師・8分野9名の認定看護師が在籍しています（2022年2月現在）。日々の臨床での活動において、各分野の専門性を活かしながら、スタッフの誰もが質の高い看護を提供できるよう尽力しています。

約2年前になりますが、地域の皆さま方と交流を深める方法を模索していたところ、コロナ禍に見舞われました。程なくして「新型コロナウイルス感染症拠点病院」に指定され、当院の果たすべき役割を全うできるよう、各分野の専門・認定看護師も精進しました。臨床現場での活動を継続すると共に、集合研修が困難な状況において、『通信』という形で「今、スタッフが必要な知識」を中心に発信しました。今後は、“withコロナ”の状況で、いかにして地域の皆さまと協働させて頂けるかを考えていきたいと思っています。その日に向けて、各分野の専門・認定看護師の活動をご紹介します。

専門看護師からのメッセージ



☒ 慢性疾患看護専門看護師 正井静香、三船恵里

今年から念願の2名体制となりました。糖尿病をはじめとする生活習慣病やリウマチ性疾患、IBD等を抱える人々が、病気とうまく付き合いながら望む生活を送れるように支援しています。患者さんが高齢化する中で療養生活をサポートするには、地域の方々との協働が欠かせないことを実感しています。

☒ がん看護専門看護師 関典子

緩和ケア病棟に所属しており、隔週金曜日はリンパ浮腫外来を行っています。緩和ケア病棟では、患者さんとご家族が最期までその人らしく生活できることを目標に、緩和ケア医と病棟スタッフと共に実践を中心に活動しています。リンパ浮腫外来では、リンパ浮腫の緩和だけでなく、在宅でも継続できるようにセルフケア支援を行っています。

認定看護師からのメッセージ



☒ 救急看護認定看護師 森本綾子

命の危機にある患者さんの救命において、後遺症を最小限にすべく最大限の看護を提供します。また、そのご家族への援助も同時に行っています。

☒ 皮膚・排泄ケア認定看護師 仲上直子

「皮膚を守る」「快適な排泄をお手伝い」を目的に活動しています。患者さん・ご家族が生活しやすい環境を整えられるよう努めています。

☒ 集中ケア認定看護師 山名比呂美・松本みゆき

生命の危機状態にある患者さんの病態変化を予測し、重篤化の予防に努めます。また二次的合併症の予防および回復のための早期リハビリテーションを推進しています。

☒ 緩和ケア認定看護師 柿本久美子

外来でがんと診断された早い時期から緩和ケアを取り入れ、抗がん治療の時期や、抗がん治療が難しくなった時まで、幅広く患者さんの困りごとや辛さに対応し、QOL（クオリティー・オブ・ライフ）が高められるよう努めています。

☒ がん化学療法認定看護師 安宮加代子

主な活動は、抗がん剤の投与管理、セルフケア援助や意思決定支援です。患者さんが安心して治療ができるような関わりをしています。

☒ 感染管理認定看護師 森下直美

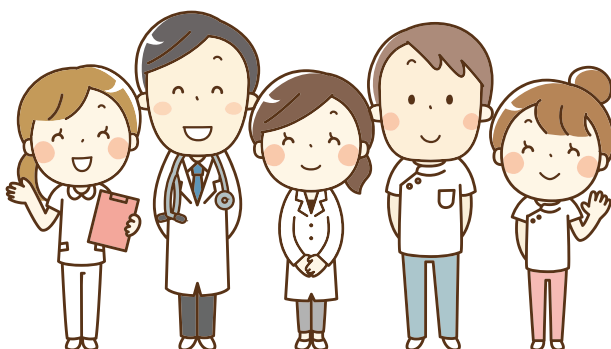
病院で働く全ての職員や患者さんとその家族に対して、多職種と協働しながら医療関連感染の管理と予防に努めています。院内の感染対策等などお困りの際はご連絡ください。微力ながらお手伝いできればと思います。

☒ 手術看護認定看護師 杉本啓介

手術を受ける患者さんのリスクを回避するとともに、術後回復を促進できるよう多職種と連携しながら周手術期看護の充実を図っています。

☒ 摂食・嚥下障害看護認定看護師 田口裕子

食べることに関する生活の質の改善を目指して、全身状態を捉えたリスク管理、廃用症候群の予防を中心とした看護ケアを提供しています。嚥下障害のある患者さんに対して早期に嚥下リハビリが介入できるように取り組んでいます。





県立加古川医療センター外来診療表

令和4年2月1日(火)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	担当医	中村
消化器内科	1診	宍本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	廣畑(午前)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	宍本(さかもと)
	2診	廣畑	岡田	【担当医】	廣畑	森口
	3診				担当医	岡田
循環器内科	1診	福田	担当医(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科		木村	木村	木村		渡部
糖尿病・内分泌内科	1診	飯田	藤田	飯田	石田	櫻谷
	2診		【大町】			
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中		田中		田中
生活習慣病		【尹(ゆん)】 肝炎	【戎谷(えびすたに)】 肥満		【石井】 肥満	
		【福田】 禁煙	装具外来			
リウマチ科	1診	田中	田中	田中	田中	担当医1
	2診	村田	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3診	西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4診	中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科	1診	午後	加藤		加藤(1,3,5週)	
外科・消化器外科	1診	高瀬	川嶋	小林	担当医	高瀬
	2診	多田羅(たたら)		門馬(もんま)		
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1診	担当医	森下	森下	担当医	相原
	2診		荒井	荒井		森下
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	担当医
	2診	小林	担当医		小林	
整形外科	初診 1診	原田	中川	高山	青木	
	初診 2診	高原		市村	西原	
	再診 1診	【青木】		原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】		【市村】	
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	谷口		谷口	谷口	谷口
	3診	【町田】		【町田】	【町田】	【町田】
皮膚科	初診/予診	【北尾】	【原田】	【高井】	【横山】	【北尾】
	1診	横山	足立	足立	増田	足立
	2診	原田	北尾	増田	原田	横山
眼科	1診	薄木	薄木	石川	薄木	薄木
	2診	徳川	徳川	徳川	石川	石川
	3診	秋田	秋田	秋田		
泌尿器科	1診	丸山	脇田	田中	丸山	田中
	2診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	(治療)	担当医	担当医			担当医

予約受付時間 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。